

平成29年度 第12回 東区自治協議会 会議概要

開催日時	平成30年3月29日（木） 午後2時から午後4時
会場	東区プラザ ホール
出席者	<p>【委員】 國兼委員、作左部委員、和田委員、渡辺（順）委員、桑原委員、長谷川委員、吉田委員、佐藤（清）委員、三島委員、菊谷委員、月岡委員、野村委員、安藤委員、江川委員、大澤委員、小野委員、木村委員、後藤委員、田村委員、佐藤（恵）委員、田中委員、渡辺（芳）委員、大江委員、高橋委員、中川委員、山田委員、井上委員 以上27名</p> <p>【事務局】 （東区）齋藤区長、夏目副区長（総務課長）、清水地域課長、古寺区民生活課長、渡辺健康福祉課長、萩野保護課長、玉木建設課長、青木石山出張所長、鷺尾中地区公民館長、浦澤東消防署長、村山地域課長補佐、吉原教育支援センター所長、地域課職員 （本庁）篠田市長</p>
1. 開会	<p>（後藤会長） 皆さん、こんにちは。今年度最後の会議となりました。「平成29年度 第12回東区自治協議会」を開会いたします。 本日は、自治協の議題に入る前に、篠田市長より「2018年 新潟市の取り組み」としまして、来年度の取り組みや事業・予算などについてお話しいただきます。市長のお話は25分程度、その後の質疑応答も含めて、全体でおおむね1時間、午後3時までの予定です。 なお、質疑応答につきましては、本日は自治協委員との懇談の場であることから、ご発言は委員の方に限らせていただき、なるべく多くの方から発言していただきたいため、お一人1回のみで2分程度とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。 それでは篠田市長、よろしくお願いいたします。</p>
2. 市長と東区自治協議会委員との懇談会	<p>（市長） 皆さん、こんにちは。年度末の大変お忙しい中、自治協の今年度最後の会合にお集まりいただきましてありがとうございます。また、日ごろから、新潟市政及び東区政の運営に大変なご尽力、ご協力をいただいていることについても感謝申し上げます。そしてこの冬は、平成最悪の冬ということで、降雪量、また、寒さも厳しく、大変ご迷惑をおかけしたと思っております。新潟市建設業協会の皆さま、除雪業者の皆さま、大変に頑張っていたいたのですが、新潟市の除雪力では及ばずご迷惑をたくさんおかけしたのではないかと感じております。除雪費も過去最大の年の倍以上かかっており、この処理を年度末、年度明けにしっかりとやっていきたいと思っております。 それでは、「2018年 新潟市の取り組み」についてお聞きいただきたいと思っております。 まずは、若干の振り返りですが、新潟市は2005年に大合併をし、それから10年間、合併建設計画、そして、それを遂行する財政計画をつくって基金を取り崩しながらまちづくりに邁進させていただきました。10年間財政計画の範囲内ではありましたが、基金の取り</p>

崩しを続けてまいりました。そして、2014年度で合併建設計画が終わりましたので、2015年度、2016年度の2年間は、いわば軟着陸の期間と位置付けておりました。昭和の大合併では地域間格差が非常に大きいということもありましたので、昭和の大合併地域に目配りをする中で軟着陸をやってきたということです。

そして、2017年度、2018年度の2年間で新潟市は財政を立て直す形で、財政再建元年が今年度になろうかと思えます。そのような形で、予算編成に取り組んできたということです。基金残高が33億円まで減少した中で、予算編成当初段階とはいえ、財源不足119億円が焦点化されて、皆さま方にもご心配をおかけしたと思っております。新年度予算では、今まで取り崩してきた基金、これを何とか積み増しに転じたい。そして、市債残高を抑制する。そのためにはプライマリーバランスをとり、決算段階で黒字にし、市債残高の縮減を目指すことを大きな目標にしていまいりました。そのために内部組織改革をする、あるいは、全庁をあげて事務事業の洗い出しをして見直し、公債費の積立ルールを国モデルに準じた形に変更させていただくということをして、何とか持続可能な財政に戻したいということです。

そのような中で市職員の数はどうかということです。合併以降、職員の適正化に努めてきましたが、同規模政令市に比べると、私どもは470人ほど職員が多いという数字になりました。これは人口80万人で8つの区と、1区あたりの人口が一番少ないのが新潟市ということでございます。また、公立保育園の割合が、他の都市よりも高い。その辺りで職員が多いという状況になっております。

そして今回、全事務事業1,194事業で見直しをし、46億円を縮減させていただきました。そういった作業をしながらつくり上げた新年度予算です。

平成30年度当初予算の総額が3,802億円、前年度比マイナス173億円、4.4%の減となりました。扶助費は年々膨れ上がっており、微増になっております。普通建設事業費は、かなり大きなマイナスですが、2月補正予算と一体的に推進をするという面では、20億円ほどのマイナスです。これは新潟駅連続立体交差事業が新年度はいったん休みになり、その分が減った形になっております。

そして、維持補修費などはしっかり付けさせていただいているという状況です。プライマリーバランスは決算段階で7億円の黒字。また、基金もわずかではありますが、2億円積み増したということで収支均衡を何とか達成できたのではないかと考えております。

平成30年度は、新潟が世界に開かれた港になって150周年の節目であります。また、先ほど申した財政再建の元年にしていきたいと考えております。持続可能な財政を構築する中で安心と活力、この両輪を回して、政令市新潟の拠点化とまちづくりを推進したいと考えております。

次に開港150周年の記念事業についてですが、まず、キックオフイベントは7月14日から開催する「海フェスタにいがた」です。この海フェスタには例年、秋篠宮殿下妃殿下においでいただいております。開港150周年を飾るにふさわしいキックオフイベントになるのではないかと考えております。また、記念事業としては、「水と土の芸術祭2018」を開催します。西港のシンボルである万代島の旧水揚場跡地、通称「大かま」をメイン会場に、こちらも7月14日から開催します。

来年の1月1日が本当の開港記念日ということになり、来年の1月下旬に記念式典の開催

を予定しております。

次に新潟のまちづくりも大きなエポックを迎えることについてです。新潟駅の連続立体交差事業ですが、この高架駅第一期開業を迎えるということになり、同一ホームで向こう側に新幹線、こちら側には在来線特急「いなほ」などが着き、水平移動で乗り換えができ、負担が極めて軽くなります。また、2カ所の踏切も撤去され、南北に分断されていた市街地の一体化が進むため、新潟のまちづくりを大きく前進させる契機にしていきたいと思っております。

続いて具体的な新潟市の取り組みということで、安心協働都市を3つの都市像ごとに説明いたします。まずは、地域で医療介護が受けられる地域包括ケアシステムを進めていきます。新しい支え合いのしくみをつくっていく、しくみづくり会議・推進員の活動を強化してまいります。さらに支え合いの活動の中で有償ボランティアの活動も強化していきます。「まごころヘルプ」という有償ボランティアがありますが、これをより強化していきたいと思っております。また、特別なテーマとして認知症への対応があります。これを初期に発見して集中的に支援をしていく。そのようなチームを2チームから4チームに増強してまいります。

次に、出会い・結婚・妊娠・出産・子育てを切れ目なく支援していくということです。まずは、婚活のネットワークをよりしっかり構築していく。そして、経済的な理由で結婚に二の足を踏んでいらっしゃる方の背中を押す結婚新生活への支援という新しい制度も創設しました。

さらに、安心して子どもを預けられる環境づくりです。新潟市は長く、待機児童ゼロを続けてきましたが、この1、2年は、残念ながら、年度替わり、あるいは、年度途中で待機児童が2、3人発生する状況になっています。これを私立保育園などの建設費補助を拡充して待機児童ゼロに向けて、再び歩み出そうとしております。さらに小学6年生まで拡充された放課後児童クラブも受け入れ環境が非常に厳しいところがまだ残っておりますので、その改善にも努めていきたいと考えております。

さらに、貧困の連鎖、特に子どもの居場所づくりについてです。東区がトップランナーでしたが、子ども食堂という形で、新潟市全域で立ち上げていただいているこの活動を持続可能になるように支援してまいりたいということです。「にいがたっすこやかパスポート」についても対象を中学生までに拡大します。

次に教育ですが、新潟らしい教育、全ての子どもたちに農業体験と食育を提供する「わくわく教育ファーム」を一層推進してまいります。さらに、「大好きにいがた体験事業」では、新潟の良さを伝え、愛着を育む。この体験事業を、新年度は中等教育学校、あるいは、市立高等学校でも実施いたします。また、働き方改革がいろいろな方面で求められていますが、教職員も非常に厳しい状況ですので、新年度、学校事務支援員、あるいは、部活動指導員を配置し、少しでも働き方改革を教職員分野で加速していきたいと思っております。

また、学力については、政令指定都市ランキングで、新潟市は小学校分野では、4つの中で3つが政令市トップという状況です。中学校になると少しダウンするので、今、てこ入れをしていただいている状況です。今年から、体力も、政令市のランキングが出ましたが、新潟市の小学校は、男子女子とも、政令市トップ。中学校は男子が1位、女子が2位でトップレベルということであります。また、子どもたちの見守りもしっかりやっただくよう、教育強化してまいります。

次に2つ目の都市像「環境健康都市」についてです。超高齢社会の中で健康寿命を延ばしていくのが非常に重要であるため、中学校区単位で、健康度を見える化し、地域課題に応じて取り組みを強化しております。塩分のとりすぎに対応する「にいがたちょいしおプロジェクト」も推進してまいります。また、新年度は企業・団体と連携して、健康経営の推進を支援していきたいと考えております。「健康寿命延伸アワード」も今年度は、グランプリ、準グランプリを選ばせていただきましたが、地域で健康度を競い合うという形をより明確にしてまいりたいと思っております。

次のコマが、「まちなか活性化」です。中央区役所を、昨年8月にNEXT21へ移転させていただきました。古町、榎谷小路などでは、人の流れがよいほうに変化しているという状況が出てまいりました。さらに、大和の跡地の再開発については、再開発ビルへの支援をしっかりと行います。市役所機能の一部を3階から6階に入れ、市役所ふるまじろ舎の整備に着手してまいりたいと考えております。また、地域それぞれのまちなかを支援する魅力ある店舗づくりについても強化してまいります。

続きまして、バスについてです。BRT・新バスシステムを開業した1年目は、わずかですが、利用者が0.8%増加しました。これまでは10年間で40%減ってきたことを考えれば、わずかでも増加に転じたという意味は大きいと思っております。2年目には、さらに2.5%増加したということです。持続可能なバス交通の土台が構築されつつあると思っております。

次に、健康づくりとまちづくりを徹底連携させる「健幸都市づくり（スマートウエルネスシティ：SWC）」であります。新潟市は、東京と比べると、1日の歩数が2,000歩ほど少ないということです。歩いて楽しく、自転車や公共交通で便利に移動できるまちをつくり、それによって、1日の平均歩数も伸ばしていただきたいと考えております。そのために、新バスシステムをさらに強化してまいります。区バスなどのバリアフリーを進め、小型のノンステップバスを新年度に3台導入いたします。また、「シニア半わり」制度を継続していきます。そして、JRの2つの新駅を何とか実現させるよう、JR新潟支社と協定を結んで調査検討を本格化させてまいります。

その次に働きやすい環境づくりについてです。働き方改革の推進、ワーク・ライフ・バランスに配慮している事業所を表彰させていただきます。また、現在は、人手不足の中でワーク・ライフ・バランスに配慮していないという事業所にはなかなか人が集まらないという状況がありますが、特に女性、若者たちが働きやすい環境をつくっていただきたいと思っております。新潟は産業界と連携して、素晴らしい中小企業が市内にあるということを若者たちに伝えていきたいと思っております。

次が12次産業化についてです。6次産業化に加え、子育て・教育・福祉など6分野で頑張ってください。特に、農業と福祉は相性がいいということで、農福連携が各地で始まっているという状況で、これを支援してまいります。12次産業化優良事業所の表彰ということも取り組ませていただきました。秋葉区の「森のようちえん」、そして西蒲区の「たくみファーム」は農業特区に手を挙げていただいた企業なのですが、精神障がい者を含む障がい者を雇用し、そして、G-GAPも取っていただいた、大変素晴らしい事例だと思います。「大地・田園の力」を最大限、今後も活用させていただきたいと思っております。

次に、3つ目の都市像「創造交流都市」についてです。まずは、持続可能な農林水産業を

確立していきたいと考えております。今年は平成30年問題で米農業が大きな転換期を迎えます。今後は、稼げる農業を目指して高収入な園芸作物などに転換していただきたい。それを、元気な農業応援事業として支援をしてまいります。また、魅力ある農業の担い手、育成も支援させていただき、米の輸出なども強化してまいります。

その次が国家戦略特区、農業特区についてです。農業特区で参入した企業の皆さまに非常に頑張ってもらっています。また、農家レストランも3軒オープンし、非常に人気が高いという状況です。

規制緩和は使っていないけれども、せっかくなら、農業特区の新潟でやりたいということで、例えば、NTTドコモさんが地元ベンチャーなどと組んで、水田センサー、あるいはドローンでICT農業を展開していただいております。さらに、イセキさん、クボタさんなどが、ICTの農機具を越後平野に導入していただき、全国に広げていこうとされています。また、西蒲区では2ヘクタール規模の最新式のオランダ型植物工場が、今、収穫に入り始めているという状況です。さらに、外国人の人材を農業分野で活用させていただき規制緩和を認めていただきました。

その次が、働く場、雇用についてです。内発型産業の育成・創業を支援してまいります。特に、今、人手不足の対応のため、設備投資への意欲が非常に高いということが、アンケートの結果で分かりましたので、その設備投資への補助をしていきます。そして、事業承継支援のため、中小企業を対象にIPC財団に相談員を強化していきます。さらに、オフィスビル、ICT関係、リノベーションの支援制度も創設いたしました。また、8つの区域を特定して、新たな工業用地を早期に確保できるように取り組んでまいります。

航空機産業が21世紀を支える新しい産業の柱になり得ると思っておりますが、西蒲区のエンジン関係、さらに南区では機体部品工場において全ての区画が埋まり、本格的な受注体制に入りますが、それを支援していきます。さらに、ICTなどを活用した先端型のビジネスの相談窓口も明確にして新しいビジネスの創出を加速していきたいと思っております。

その次が、食文化創造ということで、食と農と文化の融合、食文化創造都市を確立しようと考えております。そのシンボルとしてレストランバスという形になり、今年も4月から新潟で運行が始まります。ガストロノミーツーリズムであります。これも新潟市がトップランナーになっていきたい。さらに、日本とフランスの交流が160周年の節目になるということで、パリでジャポニスム、日本の伝統文化を紹介しますが、その中で新潟の文化・芸術も紹介したいということで、さまざまな新潟の文化がフランスで披露されるということに内定しております。

次が、新潟開港150周年についてです。来年の1月1日以降はこのような形として、新潟県が国民文化祭、そしてJR各社が、新潟に行きましょうキャンペーン、デスティネーション・キャンペーンをしていただき、その余勢を駆って、2020年は東京オリンピック・パラリンピックを新潟から盛り上げたいと思っております。空港・港湾はこの3~4年、なかなか元気が出なかったのですが、今、新潟県にはかなり体制を強化していただき、空港はLCC、ピーチの就航、あるいは、台湾便の増便などで反転攻勢の機運が非常に盛り上がってきております。港湾コンテナも3年ほど前年度を下回っていたのですが、去年は前年を上回ったということで、さらに伸ばしていきたいと思っております。

その次が防災・救援首都の機能強化です。平時の拠点化を進めて、いざというときは、新

潟が一番頼りになるという形にしていきたいと思います。

次に、多様な来訪者の獲得についてです。東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けて、1つは、文化プログラムで文化庁の支援を得て、アーツカウンシル新潟をいち早く設置していただきました。これを司令塔として、文化プログラムを新潟が先導してまいります。また、ナショナルチームの合宿の誘致については、2020年東京オリンピック・パラリンピックにさきがけて、平昌冬季オリンピックで、ロシアフィギュアスケート代表の選手に新潟で直前合宿、そして期間中合宿をしていただき、ザギトワ選手が金メダル、メドベージェフ選手が銀メダルとワンツーフイニッシュを決めていただきました。新潟の支援、練習環境は極めてよかったというお褒めの言葉もいただきましたので、東京オリンピックの時には、フランスなどをターゲットにして、ぜひ多くの種目から新潟を選んでいただきたいと思います。

2020年は東京が大混雑という状況になりますので、東京に滞在するのではなく、新潟を滞在本拠地にして、競技を見る時に上越新幹線などを利用して東京に行っていただく、「新潟プラス・トーキョー運動」を全県で展開をしたいということです。

次も観光についてです。外国人を含めた誘客促進では、まだまだ新潟市はやるのが山のごとくあるということで、こちらもしっかり取り組んでいきたいと考えております。東港は大型クルーズ客船が寄港できますが、新潟の街中への移動には不便という中で、西港は小型だけでも、1泊単価が高い富裕層が乗っているクルーズ客船の誘致にターゲットを絞り、寄港回数が今年の8回から13回に大きく増えるという状況になっております。

次が、新潟暮らし創造運動です。新潟暮らしの良さを伸ばし、新潟暮らしの欠点は早期に改善していこうという運動です。まず生活コスト見える化サイトを構築します。初任給だけ比べると、新潟と東京では相当の差がありますが、生活コストも差があるということを知っていただき、総合的に判断していただきたいと思います。また、「NIIGATA LIFE」をリニューアルして、U・I・Jターンの体験談をより触れやすくしたいと考えております。

次も、U・I・JターンとHAPPYターンモデルで、第1号の西蒲区の越前浜に続きまして、第2号として小須戸地区を指定させていただきました。また、今後は、これからU・I・Jターンを頑張るところに手を挙げていただく、手挙げ方式の移住推進モデルも作っていかうと考えております。その第1号が秋葉区の朝日地区と金津地区で、それぞれの特性を踏まえて頑張ってください、その活動を支援していきたいと考えております。

そして、新潟市の人口については、人口減少が厳しいところが合併地域にもございますが、中央区のと真ん中にもあります。こういうことを知っていただき、適切な対応策を取っていかうと考えております。

その次が、新潟市のやり方についてですが、市全体のことについては、「新潟市まち・ひと・しごと創生総合戦略」があります。例えば、先ほどの工業団地のようなものについては、市全体でバランスを見て決めさせていただきます。また、区には区ビジョンまちづくり計画があります。そのもう一つ現場に近いところ、中学校区単位を中心に、地域課題に応じた取り組みを実施していただきたいと思いますと考えておりますが、そのために地域の人口動向見える化した地域カルテをコミ協さんなどにもお配りしております。そして、地域で活動していただく際の補助メニューをリスト化させていただきました。各地域で、先行して取り組んでいただいた優良事例も取りまとめましたので、新年度は、まさに地域課題に応じた取り組み、こ

の実践が中学校区単位の各地で始まることを期待しております。新潟市はしっかりと伴走し、支援をさせていただきたいと思っております。

最後に、このような形で持続可能なまちづくりへ新たな船出をしたいということでございます。新年度は、開港150周年記念年度となります。地域・産業界、そして大学など産官学民、この総力を結集して、まちづくりをしていきたいと考えておりますので、ぜひよろしくお願ひしいたします。

私の説明は以上で終わりにさせていただいて、あとは皆さま方から、ご質問、ご意見、これをいただく中で相互理解を深め合いたいと思っております。

(後藤会長)

それでは、皆さまよりご意見・ご質問をお願いしたいと思います。

(三島委員)

職員配置の適正化についてお聞きします。470人を目標に職員を削減するということがありますが、この理由が、他の政令指定都市との比較で多いから、というのは少し説得力に欠けるのではないかと思います。それぞれの自治体には課題や産業構造、地域の広がりなどいろいろな違いがあるはずで、もう少し理屈付けがないと、働く人たちに対して説得力に欠けるのではないかとこのことがあります。また、これによって行政サービスの低下を招いてはいけないのです。そのための手段をどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

もう一つは、これから計画策定ということですが、目標年次をどの辺に置いていらっしゃるのかお聞きします。

(市長)

基本的に、例えば、農業分野は、他の政令市に比べて人員が多いというのは当然ということになるかと思います。一方で、特に合併地域で公立保育園の率が非常に高いということがあります。これは、国から補助が出ないこともあり、今後、老朽化してきた公立保育園を建て替える場合は、例えば、統合して、そこに私立の多様なサービスをしていただく。そういうことで保育関係の事業費は同じでも保育する人数は増えるということで待機児童をゼロに近づけていきたいと思っております。

また、区役所についても、人口が10万人以上の区役所が3つある一方で、5万人以下の区役所もあります。これが今まで組織面では保護課があるかないかが違うだけで、同じような課の数でやってきましたが、コミュニティ協議会の数も相当違います。合併地域にお聞きしたら、合併地域の区は、当分今のままにしてほしいと、区のあり方検討委員会でそのような方向が出ましたので、当分この区を維持するなら区役所の仕事のやり方、出張所の仕事のやり方、これについては業務量に応じて変えさせていただくということで、まずは地域課、総務課と一緒にいただきました。みんな地域という意識を持って仕事をしてもらいたいので、より多くの職員が地域への関わりができるようになっていいのではないかとできれば、人口10万人以上でも、それが可能なのかどうかということを検討していきたいと考えています。第一歩は、やはり区役所の業務量に合わせて、職員、あるいは、組織のあり方を変えさせていただくことです。これに踏み込んでいきたいと思っております。

そして、職員を適正化することで、かなりのコストが浮くわけですから、それを行政サービスの充実に向けていくことをしっかりとお示ししていきたいと考えています。スピード感でございますけれども、公立保育園、公立幼稚園は、今預けていらっしゃるお母さん、お父さんに心配がないように別途に再編計画を作って、その中で職員も適正化されると思います。これは6月、7月ごろまでにおおむね作っていきたいと思っています。一般職員は、基本的に5年間で220人ほど適正化をしたいと思っています。しかし、この冬が非常に厳しく除雪費も大変な額になったということですので、やはり基金はもう少し積んでおかないと、いざ災害というとき、心配ですので、その基金を早期に50億円、そして、できれば5年間ぐらいで100億円に戻す形にしたいと考えています。職員適正化もより加速していく必要があるのではないかということで、調整をさせていただいております。職員に納得してもらうことは本当に必要なもので、しっかりと論拠を示し、また同規模政令市のやり方、いいところはどんどん取り入れていこうと思います。さらにICT、アウトソーシング、そういうものも導入してより適正な職員数に近づけたいと思っております。

(後藤会長)

ほかに、ご意見、ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(高橋委員)

先日、新聞で新潟市幼稚園の減少のことが載っていました。秋葉区から3つと旧新潟市から1つ減少することが載っていたかと思いますが、そちらのお子さんと職員の方にとって不公平のない保育のできる状況であるのかどうかについてお伺いしたいと思います。

(市長)

幼稚園についても、先ほどの公立保育園の再編と一緒に、幼稚園の再編、これも別途計画を作ってお示ししていきたいのですが、保育園と違って、幼稚園はかなり偏りがあり、旧新津市に集中しているという状況がございます。一方、旧新潟市の中の幼稚園でも市立幼稚園で大幅な定員割が発生しているということもあるので、それらを踏まえて、今後、どう再編すればいいのか検討が必要です。基本的には、旧新津市について、半分程度にさせていただきたいということが、大まかな方向としてありますが、具体的には、園の建物の状況なども勘案して、地域の皆さま、そして、今、幼稚園に通わせていただいているお母さん、お父さんにご理解を得ながら進めてまいります。計画をいきなり出すのではなく、皆さまのご意見、特に、旧新津市に偏りがあるので、旧新津市の方々からご理解をいただくようにしていく必要があると考えております。職員についても、お辞めになる職員は年次で分かっておりますので、それらも踏まえて、5年、10年後にはこうしたいという形にさせていただきたいと思っております。地域の方への説明責任を果たし、地域のご意見も聞きながら、これだけ偏っているのだから仕方ないというのが大まかな受け取り方ではないかと思っております。今後、しっかりと計画をつくり、また、お示しをしていきたいと思っております。

(後藤会長)

そのほかのご質問はいかがでしょうか。

(田中委員)

最近、テレビを見ていると、たまに天気予報で新潟が消え、金沢になっていたりということがあり、非常に寂しいと思っております。今、説明を聞いて、いろいろな分野に細かく計画されていると思いました。また、今年はPTAの大きな大会があるのですけれども、新潟に来た人に何を自慢すればいいのか、せっかくの機会なのでお聞きしたいと思っております。

(市長)

天気予報にどこが出るかは、私も気にしております。あるテレビ局は若干、金沢びいきではと感じることはあるのですが、これは基本的にウィークエンドなどに訪れる方では、新潟市は金沢市にかなわないので、ウィークエンドは仕方がないと思います。ですが、人口面では圧倒的に新潟市、新潟県が多いわけですので、そのようなことについて、地元のテレビ局の幹部とは意見交換をしているというような状況です。

そして、新潟市に来ていただいた人にどこを見ていただくかということですが、新潟駅がどんどん変わっていきますが、新潟駅からまちへ出ていただくときの観光案内をより目立つところに移転させていただきたいと考えています。私はまず信濃川、萬代橋と、これが新潟駅のシンボルみたいなものですので、特に新潟駅に降り立った方にはスムーズにやすらぎ堤、萬代橋、あるいは、万代テラス、そこまで歩いていけるようなものを駅改造に合わせて整備していく必要があると思っております。また、駅改造を待たずとも、新潟に来たら、まずメディアシップの展望フロアに上っていただき、そこから眺望いただければ、新潟は信濃川に育ててもらった川港町だということが一目瞭然です。朱鷺メッセまで行っていただければ、今度は、通称「大かま」があります。先日の日曜日にも「おおかまキッズランド」で子ども遊び道具をいろいろ揃えたり、ステージパフォーマンスをやっていただいたりと、親子連れで大変な混雑でした。今度の土曜日には今回で3回目になる、スケートボードなどのストリートスポーツをするCUT IN PARKを開催します。10代、20代の若者が今度はあふれかえるということで、やっぱり新潟は港町だ、西港のシンボルは万代島だ、ピア Bandai と大かまと朱鷺メッセという辺り、ここをセットで楽しんでいただきたいと思います。生きている漁港、入り江のところでこんな素晴らしい大かまという空間がある。これはもう、新潟のすごい財産であると世界のストリートスポーツを見ていらっしゃる方が称賛をしてくださいました。そのような目は自信にしていきたいと思っております。半日時間がある場合には、北方文化博物館だと思っております。ANA総合研究所の方が、「北方文化博物館、すごい」と言って、元観光庁長官を北方文化博物館に連れて行ってくださり、その方も驚かれたということです。こういった観光資源があるので、1時間ある場合、2時間ある場合、半日空いている場合、それに応じて提案をしっかりとしていけるような新潟市にしていきたいと思っております。

また、もう一つはインバウンド対応で、台湾便が週4便になります。これは大きなチャンスです。昨年の9月に台湾便で、ある企業が企業研修で、1カ月で三千数百人を新潟市に送客いただき、ふるさと村でお酒の試飲を楽しみ、白山神社へ行き、白山神社のキティちゃんお守りがなくなるほど売れたということがあったそうです。そういったインバウンドの方から、古町、街なかを盛り上げていただけたらと思っております。今後、芸妓カフェができれば、芸

妓さんに会えるというのは、キラーカードに十分なり得ると思うので、インバウンドに対応したモデルコースを提案できます。インバウンドについては空港から考えるということで、空港から、例えば、福島潟、あるいは、農家レストラン、月岡温泉も提案できる。そして、2、3カ所、北方文化博物館などを楽しんで、新潟のシティホテルへ行っていただく。あるいは、岩室温泉に向けても2、3カ所いいところを楽しんでいただいて、夕方に岩室温泉に行けるというモデルコースを作っていく。新潟でレストランバスをやっていただいているウィラーさんが、今、バンコクで外国人を対象にした、全く言葉の不自由なく、そして、道の心配もないメニューをつくって、数人でもジャンボタクシーとかそういうものでやっているそうです。これを日本にも上陸させたいと言っているのので、レストランバスのように新潟を第1号の地点に選んでいただき、新潟空港に着いたら、そこから、すぐ快適な旅が始まるということを目指していきたくて考えています。幸い、これは外国人がつくっている外国人向けのサイトなのですけれども、2018年一番観光資源が豊富な県はどこかと調べたら、新潟県だということになったのです。これは非常にありがたい話なので、越後湯沢などで終わらずに、海まで来ていただく。時には、佐渡に行っていただく。そんな形で本当にインバウンド元年と言われるように頑張りたいと思っております。PTA大会も大勢の方においでいただけるので期待をしております。

(後藤会長)

その他に、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

(市長)

そろそろ年度末ですので、齋藤区長が今の東区の到達点と課題をお話したいのではないかなと思うのですが、よろしいでしょうか。

(区長)

今の市長の説明で、新潟の素晴らしいところを聞いておりましたが、せっかく空港に来たのに、東区が1つも入っていませんでした。それが少し残念に思いました。空港を降りましたら、東区には貯木場、そこから通船川を上っていきますと、山の下閘門があります。あれはとても見応えがありますし、全国でも非常に珍しいものだそうです。そして、大山台の上っていただければ、はるか古代には淳足柵があり、ここから古代の人たちが眺めていたかもしれないというような昔語りもできるのではないかと思います。そして、海に行っていて、万代へどうぞというようなコースも考えられるのではないかなと思っております。

私も東区民ですが、東区というと、住宅街、そして豊かな田んぼ、そんなイメージがとても強かったのですが、東区全体としては、やはり古くからの工業、産業の町であり、そして空港と港があるという強みがあるわけです。残念ながら、東区に住んでいる住民にとってはなかなかその良さが分かっていなかったのですが、県立大学の学生さんや、地元のコミ協さんが築いてくれた工場夜景という新たな産業観光が自治協の皆さんのご協力もありまして、徐々に磨かれてまいりました。

そして、退任のごあいさつで、企業を回ったのですが、企業の方たちの取り組みも、私が来たころとはだいぶ変わってしまっていて、「ぜひ、うちも工場見学を大勢引き受けたい」とい

うことで、本当に一生懸命に取り組んでいただいています。今、一正蒲鉾さんが、市長がおっしゃっていたレストランバスのかまぼこ工場の見学先ということで選ばれております。北越紀州製紙さんなども本当にたくさんの工場見学を受け入れております。産業観光という素晴らしい花が、今、咲きつつあるのではないかと考えております。

そして、東区と言え、一番心配だったのは、やはり治安が悪いということでございました。これも東区役所と自治協議会が一緒になって、区ができたときから10年かかって取り組んだ結果、ようやく東区役所の向かい側に東警察署が新設されました。警察ができただけで、すぐに治安がよくなるというものでもありませんし、現実問題として、残念ながら、今年に入ってから東警察署管内、東区の中で高齢者の交通事故による死亡事故が相次いでおります。そういった中で、東警察署の署長さんは、すぐに緊急会議を招集してくださいまして、地域の皆さん、そして、区役所が駆けつけて、みんなでの事態を何とかしようという動きができました。これが、区の中に警察署ができたという大きな強みであると思います。このように地域の課題を地域の人たちが自分たちの課題と捉えていただきまして、基幹となる東警察署ができたというのは大変大きいので、この効用を最大限に伸ばしていただければと思います。

防災の面でも津波等、非常に心配な地区もございます。東区といたしましても、大変小さな取り組みではあったかもしれませんが、今まで避難ビルのなかった船江町地区に、ようやく避難ビルとして市営住宅の上に避難場所を造ることができました。これを、来年度6月16日、新潟地震が発生した日の一斉防災訓練のときに会場として全市にお披露目ができればと思っています。

そして、自治協の皆さんのお力で、さまざまな避難所への看板ができたり、ソーラー発電付きの案内所ができたりしています。そして、今はどこのコミ協、自治会でも地域の方と学校の子もたちも一緒になって、防災訓練をやっていただけるようになっております。防災面でも、地域の皆さまの取り組みは本当に素晴らしいと思います。

そして、これからの人口減少、少子高齢化への対応ですが、支え合い、助け合うまちづくりということで、東区はコミ協が支え合いの仕組みづくり会議の第2層協議体です。コミ協単位でつくっていただきました。そして、コミ協の中で、それぞれの自治会単位で活動しているコミ協もあり、本当に力強く思っております。先日のあったかふれあいまつりのように、多世代で交流していく、温かな地域を思う気持ちというものが、東区は本当に強く、それがまた徐々に育ち、また、組織化されているのではないかとというのが、今の私の感想です。

本当に安心安全なまちづくり。心地よく暮らしやすいまちづくり。そして、地域の特徴を生かした魅力あるまちづくり。この3つを柱として、私は3年間、皆さまに支えていただきながら取り組んできたつもりです。その花がようやく咲きつつあるところ、この3月末で、私は退職をさせていただきます。今後、これをどう花開かせていくかということは、人口減少対策と、方向性としては同じだと思います。人口減少対策ということでは、東区はこれからお子さんが生まれる若い層の方がたくさん住んでいらっしゃいますし、これから寺山公園と子育て交流施設ができるということで、これでまた東区のイメージはとてよくなると思います。若い方が子育てしやすい安心安全なまちということで、東区は本当に新潟市の中でもこれから可能性のある区だと思っていますので、皆さん、これからも東区をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(後藤会長)

そろそろ終了の時間が近づいてきました。他にご発言したい方はいらっしゃいますでしょうか。

(渡辺(順)委員)

今、第2層のお話が出ましたが、昔は地域包括ケアシステムの構築などのお話が進んできて、現在、第1層、第2層となりました。その中で第2層は地域でも活動というお話があるのですが、下山コミ協ではまだまだ進んでいないのです。それで、どのように進めていくのかを分かりやすくお聞きしたいのですが、よろしいでしょうか。

(区長)

コミ協さんによって進め方がそれぞれあるのではないかと思います。下山の場合は、コミ協さんではなく、ほかのボランティア団体がかなり活発な活動を行っていらっしゃると伺っておりますので、そちらとどのようにコミ協が連携をしていくかが、これから先の課題ですし、進んでいく方向性としては、一番可能性のある地域であると思っております。

そのほかに、コミ協さんで自治会長さんを全員集めて、まず課題を洗い出しているとお聞きしています。それから、アンケート調査をされて、どういうサービスが必要かということ进行调查しているコミ協さんもあると伺っておりますので、それぞれ2層の方が皆集まって会議等を開いていると思っております。それぞれ情報交換を行いながら、その地域の中で、皆さんがどういうサービスを必要としているのか、その把握から入っていったらよろしいのではないかと思います。

自治協で、今回、各茶の間のマップも作っていただきました。地域の資源がどういうところに、どういうものがあって、どういう方たちが、すでに活動していて、どういうサービスが足りないのかということ各コミ協さんごと、2層ごとに皆さんで課題を話し合っ、その解決策と一緒に考えていく方向がよろしいかと思います。

(後藤会長)

では、最後に、もうおひとりお願いしたいのですが。

(作左部委員)

今日のご説明とは直接関係ないのですが、ぜひ市長に、お伺いしたいと思っていることが1点あります。10月に市長選があります。今のところ、マスコミによると、4、5名ほど名乗りを上げている人いらっしゃいますが、篠田市長からは、マスコミを通じてはウンともスンとも声が上がっておりません。篠田市長は今度の選挙はどうなさるおつもりでしょうか。忌憚なくお知らせいただきたいと思っております。

(市長)

私も今、新年度の予算編成が終わり、そして、このように自治協の皆さまへのご説明をして、いろいろな場でご質問、ご意見をいただいております。そういった反応をしっかり受け

止めながら、年度明けになったら本格的に考えさせていただきたいとマスコミには申し上げております。もうじき年度明けになりますけれども、年度明けすぐというのではなく、年度明けから考えるということで、もうしばらくお時間をいただきたいと思います。今の段階で申し上げることは、それしかないということでご容赦いただきたいと思います。

(後藤会長)

予定していた時間となりましたので、最後に市長より一言お願いいたします。

(市長)

今日は限られた時間ではありましたが、いろいろなご意見を頂戴できました。ありがとうございます。今ほど、齋藤区長からも話がございましたが、東区は非常に特徴があり、また、いい特徴が多いと思っております。新潟市も地価、特に商業地、住宅地の土地の価格であります。26年ぶりによくプラスに転じたということがあります。この中でも住宅地では東区において上昇に転じたところが多いということ、これはもちろん地理的な特性はあるわけですが、やはり地域の皆さまの子育てに対する支援や人情、そういうものも含めた評価をいただいているのだらうと思っております。今後はやはり都市間競争が厳しく、特に東京に引き寄せられる力が年々強まっているような気がいたしますので、しっかりと地域の良さを確認し、また、それを伸ばしていく、そういった取り組みを新年度も進めさせていただきたいと思っております。皆さまからもまたさまざまなお提案、ご助言、そして、実践をお願い申し上げて、私の感謝のあいさつにさせていただきます。

— 休憩 —

(後藤会長)

それでは、これより自治協議会の議事に入りますが、その前に事務局から報告及び資料の確認をお願いします。

(地域課長補佐)

事務局から報告及び確認をさせていただきます。

本日は、近委員から欠席のご連絡をいただいておりますが、出席者数が「新潟市区自治協議会条例第9条第2項」の規定に達しておりますので、本会議は成立しております。

なお、本日は、渡辺惇夫県議会議員、飯塚孝子市議会議員が傍聴に見えておられますので、ご報告いたします。

当会議の議事内容は市のホームページ上にて公開することになっており、会議概要作成のため録音をさせていただきます。また、報道関係者から取材の申し出があった場合は許可してよろしいでしょうか。

(異議なし)

ここで資料の確認をいたします。

本日の資料は、次第、資料1から資料8、参考資料です。そのうち、本日お配りした資料は、次第、資料1-2の別紙2「東区あったかふれあいまつりアンケート結果」、資料4「東区自治協議会委員の辞任について」、資料6-1「東区の組織の見直しについて」、資料6-2「東区の事務事業の見直しについて」、資料7「地震発生時の避難所の一斉自動開設体制の見直しについて」、資料8「社会実験東区バス紫竹・江南ルートダイヤ改正のお知らせ」、参考資料「東区あったかふれあいマップ」、参考資料「東区区バス運行ガイド（平成30年4月1日改正）」、参考資料「平成30年4月期 東区人事異動」、また、別途配布依頼がありました「江南区・秋葉区・南区・西区・西蒲区の各区自治協議会広報紙」「にいがた共育通信 第48号」の6点につきまして、委員の皆さまにのみ配付いたしましたので、後ほどご覧ください。

それでは、引き続き、後藤会長より議事進行をお願いいたします。

3. 自治協議会
関連事項
(1) 各部会
報告

(後藤会長)

それでは、議事を進行したいと思います。

まず初めに、自治協議会関連事項(1)「各部会報告」です。各部会の会議概要録は事前に送付してありますので、各部会長は、概要録に補足することなどがあれば説明をお願いいたします。

では、市民協働部門の第1部会から報告をお願いします。

(長谷川委員)

会議は3月9日に開催いたしました。会議の詳細につきましては、資料のとおりです。

主に、「発災時の地域防災体制支援事業について」、それから、「平成30年度に実施したいその他事業について」の項目について審議が行われました。

「発災時の地域防災体制支援事業について」ですが、平成29年度の事業評価の内容については評価書のとおりです。それから、平成30年度の事業については事務局からスケジュールの説明がありました。

また、「平成30年度に実施したいその他事業について」の審議を行い、資料にあるような9件の提案がございました。会議の内容は、以上です。

(後藤会長)

ただ今の報告に対して、ご質問のある方はいらっしゃいますか。

(質問なし)

では、次に福祉・教育・文化部門の第2部会から報告をお願いします。

(佐藤(恵)委員)

会議は3月12日に開催しました。

審議内容の(1)「東区あったかふれあいマップ」についてですが、どなたにも親しみあるマップとなりました。完成した冊子の内容を確認し、今後の配布方法を確認いたしました。

(2)の世代間交流イベント「東区あったかふれあいまつり」については、別紙1をご覧ください。3月18日、東区自治協議会主催の「東区あったかふれあいまつり」において、

「ぬたりん」が東区長より新潟市東区公認キャラクター「東区応援団長」に任命されました。とても親しみやすくかわいい「ぬたりん」ができ上がったと思います。今後は、「ぬたりん」を広く活用していただきたいと思います。

また、別紙2「東区あったかふれあいまつり」のアンケートですが、女性や10代の方に多く来ていただきました。それも、3月18日の「自治協議会だより」の一面に記事を掲載していただいたのが、関係しているのではないかと思います。参加者も300人と大変多くなりました。今回も皆さん、とても楽しんで帰っていかれました。

(3) 事業評価については記載のとおりです。

次の開催日は、4月9日(月)午後2時から東区役所会議室Aとなります。

(後藤会長)

ただ今の報告に対して、ご質問のある方はいらっしゃいますか。

(質問なし)

それでは、あったかふれあいまつりに参加された方に感想などを聞かせていただきたいのですが、第1部会、第3部会の方で参加された方がいらっしゃいましたら、お願いします。

(井上委員)

特に印象に残ったのが、齋藤区長が松田聖子さんの歌を歌われたことです。皆さんも感動していましたし、よかったと感じました。

(大江委員)

私も参加させていただきましたので、感想を述べさせていただきます。井上委員からお話がありましたように、区長さんの「赤いスイートピー」は良かったです。皆さんが喜んでいらっしゃいました。今回は、2回目ですが、参加された方々には5～6歳から10代の1つの固まりがあり、30～40代の固まりがあり、そして60～70、80代の方まで本当にたくさんの方が来てくださって喜んでくださいました。吉田委員が司会をしてくださったのですが、すごく和やかに進めていただいて、本当に皆さん、喜んでいらっしゃいました。そして、一緒に歌を歌ったり、体操をしたり、自衛隊の太鼓を聴いたり、本当に内容が濃かったのがよかったと思います。また続けてほしいという声を、私も会場にしながら聞かせてもらいました。来年度もぜひ続けていただきたいと思います。

(江川委員)

私は、新潟弁のラジオ体操が目的で参加させていただきました。今お話をお伺いして、区長の歌、聴きたかった、最後までいけばよかったと、思ったところです。新潟弁のラジオ体操は、ナレーションがとてもきれいな新潟弁でした。若いお父さんたちが、その新潟弁に大笑いしながら一緒になってラジオ体操をしていたことがとても印象に残りました。社協でも進めている「お茶の間」にもラジオ体操をどんどん持っていったらと感じました。

(大江委員)

言い忘れたことがありました。先ほど、「ぬたりん」の任命式について報告がありました

が、「ぬたりん」は最初、まゆ毛が濃くて、ひげがあって、少し怖い感じがしました。ところが、この写真を見ると、かわいいですね。子どもに大好評で、これは地域課の係長さんが、顔が怖いので、優しいまゆ毛にして、ひげを離して付けてくださって、とってもかわいいキャラクターになりました。当日は、子どもが触ったり、そばに寄ったりして、本当に好評でした。中に入っていた方は誰だか分かりませんが、大変だったと思います。ご苦労さまでした。

(後藤会長)

では、次に産業・環境部門の第3部会の報告をお願いいたします。

(國兼部会長)

会議は3月8日に開催しました。審議内容は資料のとおりですが、平成29年度の自治協議会の提案事業について、第3部会では、東区の工業を紹介する映像制作に力を入れまして、ようやくDVDができ上がりました。また、今後の活用方法の検討のためにアンケートを実施することにしました。

東区の公共交通の研究については、記載のとおり、4月からの改正内容の説明が事務局からありました。

事業評価については、皆さんからの意見を取りまとめた内容を確認しました。

2番目の項目として、来年度提案事業は、東区の農産物をテーマとして、魅力発信事業を頑張っていきたいと考えております。

今回の会議は4月12日(木)午前10時から東区役所会議室Bです。

では第3部会で制作したDVDをこれから皆さんで見てください、ご感想をいただければと思います。

<DVD観賞>

第3部会の委員の方々、そして、事務局の方々とうまくここまでまとめ上げました。今後も東区の工業の発展のために、われわれも協力していきたいと考えております。このDVDを各コミ協、学校等に配付し、また、区バスの中でも放映していきたいと考えています。

(後藤会長)

ただ今の報告に対して、ご質問のある方はいらっしゃいますか。

(質問なし)

では、この映像の感想を第1部会、第2部会の方からお聞かせいただけたらと思います。

(桑原委員)

私は東区そのものについてはあまり詳しいことが分からなかったのですが、今年度、この自治協議会に所属して、工場見学をさせていただき、今日この映像を見て、東区には昔からの土台があったのだなということ、それに基づいて、やはり今の発展がされてきたのだなと思いました。そして、今度は世界に向けた芽生えが、ここでも始まっているのだなというこ

<p>3. 自治協議 会関連事項 (2) 提案事 業検討部会 報告</p>	<p>とを、身に染みて感じましたし、非常に驚きました。</p> <p>また、私たちのコミュニティでもここまで詳しく知っている方々が多くいるとはあまり考えられません。というのは、新しく入ってきた方々が町内に非常に多くいらっしゃいますので、この映像を借用し、利用させていただいて広めていきたいと感じております。</p> <p>(長谷川委員)</p> <p>新潟市コミュニティ交流会というものをされていて、今年で3回目になります。新潟市の全8区が集まります。昨年も6区で90人くらい集まって交流会がありました。今年はこの東区が幹事なので、この東区には工場があるということをぜひ皆さんにお知らせしたいと思いました。</p> <p>(後藤会長)</p> <p>では、次に提案事業検討部会の報告を行います。こちらは、私から報告いたします。</p> <p>資料2をご覧ください。開催概要は記載のとおりです。当日の審議事項ですが、第2部会と第3部会から先ほどのとおり完成報告があり、12月中に中間評価をした事業も含めて、各部会での評価を確認し、意見交換をしました。</p> <p>その後、来年度の事業の進め方について確認いたしました。別紙をご覧ください。</p> <p>今年度「東区まちづくりプロジェクト」として実施した(1)から(7)までの7つの事業について、評価書(案)としてまとめたものになります。ほぼ、各部会での評価のとおりとなっておりますが、3ページの(3)温かな東区共生社会創出事業で製作した「東区あったかふれあいマップ」について、「居場所については、内容が変更されることもあるので、改訂版の発行についても今後検討してほしい」という意見があり、評価の中に追加いたしました。特に問題がなければ、本日この評価書(案)のとおり確定したいと思っておりますが、ご意見はありますでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>では、特にないようですので、案のとおり提案事業の事業評価を確定いたします。提案事業検討部会の報告は以上となります。</p>
<p>3. 自治協議 会関連事項 (3) 広報紙 編集部会報 告</p>	<p>続きまして、次第の(3)「広報紙編集部会報告」です。中川部会長からご報告をお願いします。</p> <p>(中川委員)</p> <p>開催概要は資料のとおりでございます。3月18日、東区あったかふれあいまつりの日に第12号の自治協議会だよりを新聞折込等で配布しました。</p> <p>3月7日の編集部会では第12号の編集の振り返りを行いました。掲載内容の検討段階から、大変多くの意見を編集委員の方からいただいて紙面づくりをしてきましたので、非常にスムーズに作業ができたのではないかと考えております。また、この12号については、色合いも非常に春らしく、あったかいような、いいものになったのではないかと考えております。分かりやすい言葉で書いてあり、分かりやすい紙面にできたのではないかと考えております。</p> <p>それから、来年度からは、この自治協だよりを、区だよりと一緒に発行することにしまし</p>

たので、少し紙面が限られる問題も生じます。編集する段階、話し合いの中で、記事の絞り込みなどをしっかりと、今までどおり分かりやすく区民の皆さんに喜んで見ていただけるような紙面にしていきたいと話しました。

また、自治協議会だより第11号でクイズを出しましたが、そのときの答えをいただくときに、さまざまなご意見を頂戴しました。「大変いい」「分かりやすくていい」というお褒めのご意見が大変多かったように思いますが、もう少し記事に工夫が必要な部分もあると思っております。そういう意見も踏まえて、また次年度、自治協議会だよりをいいものにしていきたいと思っております。

(後藤会長)

ただ今の報告に対して、ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(質問なし)

3. 自治協議会関連事項

次に、(4)「東区自治協議会委員の辞任について」です。清水地域課長よりご説明をお願いします。

(4) 東区自治協議会委員の辞任について

(地域課長)

資料4をご覧ください。新潟市東区社会福祉協議会から選出いただいております江川委員より、人事異動のため3月31日付で辞任したいとの申し入れがございましたのでご報告いたします。後任につきましては、任期途中ですので、選出団体からの推薦を予定しております。本日の会議終了後、委員推薦会議を開催し、ご協議いただく予定となっております。

(後藤会長)

それでは、江川委員から一言ごあいさつをいただきたいと思っております。

(江川委員)

この自治協議会の委員といたしまして、昨年の3月までは第5号委員として、私ども社会福祉行議会の役員がこの自治協議会に参加させていただいておりました。4月からは東区内の公共的団体という位置づけで社会福祉協議会が2号委員になり、私ども職員が出るようになりました。普段仕事をしている中ではどうしても社会福祉協議会が行う事業、それから、福祉の事業所等々、限られたつながりしかなかったのですが、この自治協議会に参加させていただくようになりまして、産業分野、学校分野等、いろいろな方々とつながりができたことを、本当にありがたく思っております。皆さま方から教えていただいたことをしっかりと肝に銘じまして新しい勤務地でも頑張りたいと思っております。

また、部会では災害をテーマに福祉を考えたいということで、第1部会に所属させていただいておりました。ここでも本当にたくさんの地域の動き等を勉強させていただきました。その中で社協として何ができるかということもしっかり後任に引き継ぎたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

東区では2年間、この自治協議会では1年間お世話になりました。4月からは西区に異動してまいります。また、どちらかで会うことがありましたら、どうぞお気軽に声をかけていただければと思います。本当にどうもありがとうございました。

<p>3. 自治協議 会関連事項 (5) 平成 30年度東 区自治協議 会開催予定 について</p>	<p>(後藤会長) 次に、平成30年度東区自治協議会開催予定についてです。資料5をご覧ください。 すでに3月の部会でもお知らせしておりますが、来年度の東区自治協議会の開催予定を記 載のとおりとさせていただいておりますので、ご承知おき願います。 次に、4「報告事項」に移ります。(1)「東区の組織及び事務事業の見直しについて」で す。夏目副区長からご報告をお願いします。</p>
<p>4. 報告事 項 (1) 東区 の組織及び 事務事業の 見直しにつ いて</p>	<p>(副区長) それでは、先ほど市長が説明をいたしましたカラー刷りの資料の3、4のコマが該当しま すので、そちらをご覧ください。また、資料6-1及び6-2をご覧ください。東区の組織 と事務事業の見直しにつきまして説明を申し上げます。 この資料にございませませんが、市全体で22の組織を見直しまして、廃止や統合を行いまし た。このうち、区役所関係では5つの区において地域課と総務課を統合した地域総務課とし ております。東区においては資料6-1にあるとおり、変更ございません。なお、これは中 央区と西区についても同様となっています。ただ、東区においては、前回お知らせしたとお り、区役所内の配置変更を行いまして、総務課と区長室、これと建設課をそっくり入れ替え、 区長室、総務課、地域課を連続させる形で、パーテーションもなく一層の業務連携を図って まいります。 また、各課内の係体制についてです。それぞれ新旧年度比較の形になってはいますが、小規 模な係の見直しをして、グループ制というものを主に取り入れて、職員同士で情報と業務量 を共有していくという取り組みをしております。このグループ制の導入については全市的 に行っているものでもございますが、東区の区民生活課と保護課についてはいずれも係の規 模が大きいので変更はありません。 あと、人員数につきまして、資料にはありませんが、一部増減ある中ではございますが、 東区役所全体としては増員となっていることをお伝えしたいと思います。 次に事務事業の見直しについてです。資料6-2をご覧ください。 市長の資料の中では平成30年度の見直し効果は、46億円ということになっておりま す。事業数にしますと約1,200ということですが、これについて、東区ではどうかとい うものをまとめたのが、この資料6-2です。東区では16事業の前年度比較になっており、 中央にある縦の網掛けの最も下にある合計欄で一般財源ベース310万円という見直しとな っています。内容につきましては、それぞれ記載にあるとおり、事務の改善や、運用効率化 などが中心であり、事業自体を全廃したというものはございません。東区独自のものと申し ますと、地域課の区民ふれあいまつりの開催事業と、健康福祉課の子ども創作活動館の事業 があります。いずれも工夫を加えつつ、事業を継続していくというものです。そのほかの大 小14事業がありますが、いずれも8区に共通する細かな事務でもありまして、見直しの中 で各区の中で取り扱いに不均衡がないように調整を図って見直しをしています。 この資料の説明については以上なのですが、このほかに職員の人件費や、施設運営費の管 理的経費につきましても、一層の見直しと改善を行って必要額を予算化いたしました。また、 自治協議会でもご検討いただきました特色ある区づくり事業については、前年同様の2,60</p>

0万円となります。この他、4月オープンの寺山公園と子育て交流施設「い〜てらす」の管理運営費、これらをまとめました東区の予算額、34億3,272万6,000円という金額で前年度に比べて2.7%の増という予算となりました。この金額の中に含まれていませんが、市営船江町住宅の屋上避難階段の増設工事費が本庁で計上されております。以上で、組織及び事務事業の見直しの説明を終わります。

(後藤会長)

ただ今の報告に対して、ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(質問なし)

4. 報告事項

(2) 地震発生時の避難所の開設基準の見直しについて

次に、(2)「地震発生時の避難所の開設基準の見直しについて」です。これも、夏目副区長からご報告をお願いします。

(副区長)

「地震発生時の避難所の一斉自動開設体制の見直し」について、資料7をご覧ください。新潟市では、現在、区内で震度5以上の地震が発生した場合、一斉に避難所を開設するというようにしております。これについては課題があり、近年の災害発生の度合いに対して、各家庭での地震への備えが浸透してきたというところもありますし、即座に自宅を出て避難を行うという必要性の観点で申しますと、震度5弱の地震では、比較的被害が少なくとどまっております。避難者がいない可能性があるということがあります。また、避難所を開設しますと多くの職員が必要となる一方、避難を要する状況でない場合は、通常の住民サービス業務の維持も必要であるという点です。

参考となるような近年の他の都市での状況について、資料の2枚目の表をご覧ください。過去3か年に国内で発生した震度5弱以上の地震の被害と避難者の状況をまとめたものです。震度5弱から5強にかけましては、避難所への即時長期避難や、避難者自体がほぼ生じていないということが分かります。震度6弱という一番下の濃いところにつきましては、鳥取県の地震などもございましたので、状況が少し変わってまいります。

1枚目に戻っていただきまして、このような状況の上に、どのような見直しをするかと申しますと、1番の「開設基準の見直し」ということとなります。地震が発生したときの屋内の避難所を一斉に開設することを現行の震度5弱以上から6弱以上に引き上げます。これは、全ての避難所を一斉同時に開設するという基準を見直すものです。東区に地震計がございますが、例えば、東区で震度6弱以上のときは、区内全ての避難所を一斉に開設する。震度5弱、または5強の地震のときは、発生する曜日や時間帯にもよりますが、その直後にその施設自体を管理している管理運営者、または、市の指定の職員が当面の避難者の受け入れを行い、避難者の有無や被害の状況などを十分確認した上で、必要に応じて、区内の避難所開設の判断を行っていくものになります。区民の皆さまからすると、避難の必要性があると、ご自身で判断された場合は、これまでどおり最寄りの避難所へ避難をしていただくということについては全く変わりはありません。

参考に東区の避難所の一覧を添付しておりますので、これも参考にをご覧ください。

この運用につきましては、庁内の体制を整えた上でということになりますが、平成30年の4月1日からの運用ということで開始をしたいと思っております。

<p>4. 報告事項</p> <p>(3) 東区 区バス社会 実験「紫 竹・江南ル ート」、「松 崎ルート」 の運行内容 の変更及び 東区区バス 運行ガイド のリニュー アルについ て</p>	<p>(後藤会長)</p> <p>ただ今の報告に対して、ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>(質問なし)</p> <p>次に、(3)「東区区バス社会実験『紫竹・江南ルート』『松崎ルート』の運行内容の変更及び東区区バス運行ガイドのリニューアルについて」です。清水地域課長からご報告をお願いします。</p> <p>(地域課長)</p> <p>それでは資料8をご覧ください。</p> <p>平成28年7月より運行を開始しました区バス社会実験「紫竹・江南ルート」につきましては、平成29年度の内容を一部改正して運行いたします。改正のポイント1つ目として、これまでの実績から利用が少なかった越後石山駅行き第1便のダイヤを見直し、越後石山駅を通勤通学で利用する方に対応する早朝便に変更いたします。2つ目として、夕方の帰宅利用に対応する最終便を増便いたします。3つ目として、南紫竹1丁目と竹尾小学校前のバス停2か所を新設いたします。南紫竹1丁目のバス停につきましては、これまでバイパス下のボックスを通行しておりましたが、新潟国道事務所の栗の木道路、紫竹山道路の高架化工事に関連した仮称南紫竹インターチェンジの側道整備工事に伴いまして、平成30年度と平成31年度の各年度にそれぞれ3か月から4か月程度運行に支障が出る見込みとなったために、ルート図に赤い色で示した迂回ルートを実行するにあたって、ルート上に新潟交通株式会社さんの南紫竹1丁目バス停がすでにありますので、東区バスでも、そこにバス停を新設するものです。竹尾小学校前につきましては、地域住民からの要望が寄せられていた他、昨年8月に実施しましたアンケートでも複数の方から同様の要望をいただいていたことから、このたび新設するものです。運行日及び運賃に変更はございません。</p> <p>次に、裏面に時刻表を記載しております。先ほど説明いたしました早朝便と夕方便の他、紫竹踏み切りの影響を大きく受けていた東区役所行き第1便後の越後石山駅までの戻りを回送としまして、定時制の確保と収支率向上のための効率化を図っております。</p> <p>社会実験紫竹江南ルートは、来年度が3年目の運行となり、社会実験最後の年度となります。継続して運行するための目標収支率を30%にしていますが、こちらを達成するには、さらなる地域の皆さまからのご協力が必要となりますので、積極的にご利用くださいますようお願いいたします。</p> <p>それから、皆さまのお手元に新しい「東区区バス運行ガイド」をお配りしております。今ほど説明いたしました紫竹江南ルートの他に、松崎ルートのダイヤにも改正がございます。これは新潟交通株式会社の路線バスとのダイヤ近接を解消する他、遅れがちとなっていた運行の実態に合わせたダイヤとするため、最大7分ほどの調整をしております。運行ルートにつきましては変更ありません。</p> <p>(後藤会長)</p> <p>ただ今の報告に対してご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>(質問なし)</p>
--	---

5. その他

次に、5「その他」です。事務局からお願いします。

(区長)

それでは、4月期の東区の人事異動につきまして退職、そして退任する職員から一言ずつあいさつをさせていただきたいと思います。参考資料として、「東区人事異動」という一覧表をお付けしてございますので、ご覧ください。

3年間、区長として皆さまに大変お世話になりました。私は市役所に37年間勤務いたしまして、この3月末で定年となります。本当に自分でも驚きましたが、本当に最後の定年まで勤め上げることがもうすぐできそうなので、それだけでも本当によかったなと思います。支えてくださった多くの皆さまに本当に心からお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

そして、最後の3年間は、地元東区の区長を務めさせていただきました。先ほど、長々とお話をさせていただきましたが、東区というのは、本当に8区の中でもとても特徴があって、非常にいい場所だと、自分でも思っておりますし、今まで全然気がつかなかったさまざまな魅力に、大学生や地域の皆さん等、さまざまな方が気づいて、それを区役所に教えてくださったということで、区役所としても、皆さんと一緒に同じ方向を向いてさまざまな事業をすることができたのではないかと思います。特に、自治協議会の皆さまのお力というのは、本当に大きかったと思います。常に東区の課題について、区役所が考えるものと同じ方向を向いて、そして、どうしたら解決していいのかということを実際に一生懸命考えてくださいまして、さまざまな事業を自治協提案事業ということで自ら率先して実行していただきました。おかげさまで防災対策もかなり形としてできておりますし、本当に地域が1つになって課題に取り組むというそういう地域づくりができてきているのではないかと思います。これからも東区だけではなくて、日本全体がいろいろと厳しい状況もございますが、やはりまずは足元の地域のことを考えて1つ1つ課題を解決していただくことで活力のある持続可能な地域が実現すると思っております。本当に、皆さまには、3年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

それでは、次に、教育支援センターの吉原所長からごあいさつをお願いします。

(教育支援センター所長)

1年間ございましたけれども、大変お世話になりました。このたび、退職させていただくことになりました。4月からは非常勤職員として、教育委員会の本庁で勤めさせていただくことになりました。本当にありがとうございました。

(建設課長)

3年間大変お世話になりました。長いようで短い3年間でしたが、今年の冬だけは非常に長く感じました。来る日も来る日も雪のことばかり考えていて、また、職員の健康ですとか、超過勤務の時間などもらみながら対応していて大変でした。今後は、公園水辺課というところで公園行政に関わっていくこととなります。残念ながら、皆さんと直接話をする機会は少ないというような業務内容と伺っておりますが、またどこかでお見かけしましたら、声をかけていただきたいと思います。大変お世話になりました。ありがとうございました。

<p>6. 事務連絡</p> <p>7. 閉会</p>	<p>(東消防署長)</p> <p>このたび西消防署へ異動することになりました。私は5か所目の勤務になります。階級が上がるたびに東消防署で勤務をさせていただきました。消防人として、この東区の自治会の皆さま、住民の皆さまに育てていただいたと思っております。感謝しております。そして、最後、署長をさせていただきました。この最後の年、1年間の火災件数、市内では99件、この東区でも17件と、政令市以降一番少ない数字でありました。これもここにいる自治協の皆さま、そして、コミ協、自治会、住民の皆さまが一生懸命火災予防していただいたおかげと思っております。感謝をし、御礼を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。</p> <p>(区長)</p> <p>事務局にも異動がございます。地域課の村山地域課長補佐からあいさつをお願いします。</p> <p>(地域課長補佐)</p> <p>自治協議会に携わりまして、2年、委員の皆さまには大変お世話になりました。この本会議の他、各部会、そして、自治協議会提案事業等に参加させていただきました。とても内容が濃く、大変勉強となる時間でもございました。異動先は、保健所の保健管理課というところで、医療の分野や薬に関する分野などを担当する部署と聞いております。現在と大きく変わる業務内容ではありますが、新しい職場でも、ここで学んだことや経験を生かしていきたいと思っております。これからも、形を変えまして、皆さまとはお付き合いがあるかと思っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。</p> <p>(後藤会長)</p> <p>それでは、最後に事務連絡をお願いします。</p> <p>(事務局)</p> <p>次回の会議の連絡をさせていただきます。</p> <p>全体会議ですが、4月26日(木)午後3時から東区プラザホール。第1部会は4月13日(金)午前10時から会議室C、第2部会は4月9日(月)午後2時から会議室A、第3部会は4月12日(木)午前10時から会議室B。</p> <p>なお、先ほど会長からも話がありましたが、自治協議会終了後、東区プラザの音楽練習室2におきまして推薦会議を開催させていただきます。委員の方々はよろしく願いいたします。</p> <p>(後藤会長)</p> <p>以上をもちまして、「平成29年度 第12回東区自治協議会」を閉会いたします。</p>
<p>傍聴者</p>	<p>0名</p>